仁王像　一軀

【所　在　地】志布志市志布志町志布志２－１－19　大慈寺
【種　　別】県指定有形文化財（彫刻）
【指定年月日】昭和 28 年９月７日

大慈寺正門に向って左側に立つ口を開いたすなわち阿形の仁王像である。高さ 2.29m。豪快な石造美術として世に知られている。明治元（1868）年の神仏分離令は廃仏毀釈に展開し，その折，一時取り除かれて門前の土中に埋められていたが，明治 12（1879）年１月，柏州和尚の尽力により旧寺復興の時，土中よりその１体を発掘したものである。しかし，他の１体は探り出し得なかったので，同じく廃寺となった福寿山海徳寺（時宗）の仁王像を持ってきて右にすえ，一対としたものである。

県指定文化財になっている阿形仁王像の背面には次のような銘がある。

「天和二　壬戌歳　六月十二日　石工藤田次郎右衛門
寄進　山下彌三左衛門尉盛明　住山定岩叟」

また，右の吽形すなわち「那羅延金剛」の背面には，「貞享元（1684）年」の銘があり，阿形のものに遅れること２年で，石工，寄進者ともに同じである。

石工藤田次郎右衛門については詳細は不明であるが，この２像の他に，同じ天和２年３月には志布志笠　山西楽寺の仁王を作っている。また藤田作と伝えられる石灯籠や観音石像，石橋が現存し，当時かなり名の知られた石工であったことがわかる。